

肺癌、肺癌疑い例登録について

飯富病院 外科	長田 忠孝
山梨医科大学 第2内科	小沢 克良
市立甲府病院 内科	川口 哲男
山梨県立中央病院 外科	千葉 成宏
山梨医科大学 第2外科	松川 哲之助

わが国では一部の道府県、市を除き、法定伝染病や結核以外の疾患は登録制度が存在しないため、疾病の発生数の増加や罹患率を正確に把握することは困難とされています。山梨県の肺癌死は10年前に比し、50人も増加していますが、これが患者数の増加によるものか、それ以外の原因によるものかは厳密には区別出来ないのが現状です。

地域癌登録が整備されると、1. 罹患率の測定、2. 受療状況の把握、3. 生存率の測定の3点が可能となり、これにより1. がん対策の策定と評価、2. 医療機関への情報サービス、3. 医療機関における患者のフォローアップの援助、4. 職業がん、環境がんの監視、5. 疫学的研究の展開が可能となるとされています。

山梨県でも老健法にもとずき成人病登録、評価部会をおき、この課題への取組みの姿勢を示しますが、全県的な癌登録体制の整備までは、まだしばらく時間を要するようです。

山梨肺癌研究会は幸いにも県内の肺癌診療にたずさわっている、ほとんどの医療機関と医師を会員としていること、また、山梨の肺癌医療に大きな影響を与える国立療養所富士病院も会員であることより、これらの医療機関を受診した肺癌患者の登録を行うことにより、山梨県内で発生した肺癌の実態をかなり正確に把握できる可能性があると考えられます。またそのような登録制を実施することは、山梨肺癌研究会の設立趣旨にも沿うものと思われ、会員諸氏のご協力により、この試みが継続され、山梨県内における悪性腫瘍登録制のパイオニアと評価されるようになればと期待し、提案する次第です。

以下に登録の目的、対象、方法、今後の方向等及び登録表を掲げます。

山梨肺癌研究会肺癌登録

目的：山梨県内に発生する原発性肺癌の概要を把握し、罹患率の測定、受療状況の把握、生存率の測定等を行い、行政、医療、疫学的資料を提供する。

登録対象：山梨肺癌研究会々員の医療機関を受診した、初診時、山梨県内に在住する肺癌、肺癌疑い全例。

登録期間：1992年1月1日より同年12月31日
以後1年ごとに登録を継続する。
登録締切り：次年の3月31日

登録方法：肺癌、肺癌疑い例
診断時すぐに登録票の1頁にて登録する。
肺癌の確診例、治療例
登録票全部に記入し登録。

試行登録：1991年の該当例を1992年3月31日までに登録。これにより登録システム、登録表の整備を行う。
1992年の後期の研究会でその結果を報告する。

登録例のフォローアップ：新登録例と共に年一回調査。
登録肺癌が治癒または死亡時まで。

登録結果：年1回、山梨肺癌研究会で報告する。

プライバシーの保護：病名告知等にもかかわり画一的には困難と思われるが、十分な配慮をお願いします。登録は原則として郵送にてお願いします。

今後の方向：地域癌登録の公的性質より山梨県に経済的助成をお願いした。
公的、私的補助を登録票の作成費用、送料等にあて、電算化をはかる。
将来、山梨県全域を対象とした全悪性腫瘍登録制が発足した場合、その一部としての肺癌登録に協力する。

登録票送付先：〒409-34 山梨県南巨摩郡中富町飯富1628
飯富病院内 山梨肺癌研究会肺癌登録係
TEL 0556-42-2322

登録票の印刷、登録に要する費用、送料は各医療機関でご負担ください。

山梨肺癌研究会肺癌、肺癌疑登録票

受付番号 _____	届出年月日 199__年__月__日
施設名 _____	登録者 _____
フリガナ _____ 患者氏名 _____	性別 _____ 男 女
生年月日 _____年__月__日 年令 満__才	
現住所 〒 _____ _____	本籍地 _____
初診日 199__年__月__日	治療開始日 199__年__月__日
確定診断日 199__年__月__日	手術日 199__年__月__日
死亡年月日 199__年__月__日	
患者の職業歴	
患者のタバコ歴	1. のんでいた ____才~__才 2. のんでいる ____才~ 3. のまない 喫煙指数(本数/日×年) _____
患者の既往歴	
患者の家族歴	
来院の経路、理由	1. 自覚症状(199__年__月より _____あり) 2. 住民検診(199__年__月の検診で要精検) 3. その他の検診(199__年__月__の検診で要精検) 4. ドック(199__年__月のドックで要精検) 5. 他疾患観察中(199__年__月__の治療中) 6. その他(199__年__月__にて)
初診時自覚症状	1. あり a. 咳 b. 痰 c. 血痰 d. 胸痛 e. 呼吸困難 f. 発熱 g. 体重減少 h. 嗝声 i. リンパ節腫大 j. 上大静脈症候群 k. その他(_____) 2. なし
合併症	1. あり a. 活動性結核 b. 陳旧性肺結核 c. 肺炎 d. 肺気腫 e. 慢性気管支炎 f. 気管支喘息 g. 肺線維症 h. 肺嚢胞症 i. アスベスト症 j. 塵肺 k. 他の肺癌 l. 他臓器癌(_____) m. その他(_____) 2. なし
紹介病医院の有無	何処から貴院に紹介されましたか _____ 医, 病院より紹介 何処の病院に紹介しましたか _____ 医, 病院へ紹介
診断の根拠	1. 臨床所見 2. 胸部X線 3. 断層 4. CT 5. MRI 6. 内視鏡 7. 細胞診 8. 組織診 9. 手術 10. 病理解剖 11. その他(_____)

確定診断方法	1. 細胞診 a. 喀痰 b. 経気管支 c. 経皮 d. その他 (_____)
	2. 組織診 a. 経気管支 b. 経皮 c. その他 (_____)
	3. 手術 4. 剖検
確定診断部位	1. 原発巣 2. 転移巣
原発巣	1. 肺門型 2. 肺野型 3. 気管. 4. 原発巣不明
	1. 右 2. 左
	1. 主気管支 2. 上葉 3. 中葉 4. 下葉
組織型	診断方法 1. 細胞診 2. 組織診
	1. 扁平上皮癌 a. 高分化 b. 中分化 c. 低分化
	2. 腺癌 a. 高分化 b. 中分化 c. 低分化
	a. 腺管型 b. 乳頭型 c. 細気管支肺胞型
	3. 小細胞癌 a. 燕麦細胞型 b. 中間細胞型
	4. 大細胞癌 a. 粘液形成型 b. 粘液非形成型 c. 巨細胞型
5. 腺扁平上皮癌 6. カルチノイド 7. その他 (_____)	
病期分類	1. Occult Cancer
	2. stage 0
	3. stage I
	4. stage II
	5. stage III
	6. stage IV
c - T N M	全登録例で記載
T	1. T x 2. T 0 3. T 1 4. T 2
	5. T 3 a. 隣接臓器への浸潤 (_____)
	b. 気管分岐部 2 cm 以内 c. 無気肺
	6. T 4 a. 縦隔 b. 心臓 c. 大血管 d. 気管
e. 食道 f. 椎体 g. 気管分岐部 h. 悪性胸水	
N	1. N X 2. N 0 3. N 1 4. N 2 5. N 3
	1. M X 2. M 0
M	3. M 1 a. 肺: PUL b. 骨髄: MAR c. 骨: OSS
	d. 肋膜: PLE e. 肝: HEP f. 皮膚: SKI
	g. 脳: BRA h. 眼: EYE i. リンパ節: LYM
	j. その他: OTH (_____)

治療開始時 P. S	a. 0 b. 1 c. 2 d. 3 e. 4
治療内容	1. 補助、援助療法のみ 2. 化学療法単独 3. 免疫療法単独 4. 化学療法＋免疫療法 5. 化学療法＋外科療法 6. 免疫療法＋外科療法 7. 化学療法＋免疫療法＋外科療法 8. 化学療法＋放射線療法 9. 免疫療法＋放射線療法 10. 化学療法＋免疫療法＋放射線療法 11. 化学療法＋放射線療法＋外科療法 12. 免疫療法＋放射線療法＋外科療法 13. 化学療法＋免疫療法＋放射線療法＋外科療法
外科療法	1. あり 2. なし
手術日	199__年__月__日
手術々式	1. 肺摘除術 2. 肺葉切除術 (a. 一葉切除 b. 二葉切除) 3. 区域切除術 4. 部分切除術 5. 気管管状切除 6. 気管楔状切除 7. 気管支管状切除 8. 気管支楔状切除 9. 合併切除 a. 壁側胸膜 b. 肋骨胸壁 c. 心膜 d. 横隔膜 e. 左心房 f. 上大静脈 g. 右心房 h. 大動脈 i. 食道 j. 肝 k. その他 (_____) 10. 試験開胸術 11. 審査開胸術 12. その他の開胸術
根治度	1. 絶対的治癒切除 2. 相対的治癒切除 a. b. c. 3. 相対的非治癒切除 a. b. c. 4. 絶対的非治癒切除 a. c. d.
リンパ節 郭清範囲	1. R0 2. R1 3. R2 a 4. R2 b 5. R3 a 6. R3 b 7. R3 c
p T N M	外科治療例のみ記載
p T	1. T0 2. Tis 3. T1 4. T2 5. T3 a. 隣接臓器への浸潤 b. 気管分岐部2cm以内 c. 無気肺 6. T4 a. 縦隔 b. 心臓 c. 大血管 d. 気管 e. 食道 f. 椎体 g. 気管分岐部 h. 悪性胸水
p N	1. N0 2. N1 3. N2 4. N3
p M	1. M0 2. M1 (_____)

内科療法	1. あり 2. なし
化学療法 (外科、放射線療法 併用例を除く)	治療開始日 199__年__月__日
	使用薬剤 1. _____ 治療日、期間 _____
	2. _____
	3. _____
	4. _____
	5. _____
	6. _____
	治療効果 1. CR 2. PR 3. MR 4. NC 5. PD 6. 計測不能 7. 脱落
外科療法+内科療法	1. あり 2. なし
術前 化学療法 (放射線療法 併用例を除く)	治療開始日 199__年__月__日
	使用薬剤 1. _____ 治療日、期間 _____
	2. _____
	3. _____
	4. _____
	治療効果 1. CR 2. PR 3. MR 4. NC 5. PD 6. 計測不能 7. 脱落
術中	1. あり 2. なし
化学療法	使用薬剤 1. _____ 2. _____ 3. _____ 4. _____
術後 化学療法	1. あり 2. なし
	治療開始日 199__年__月__日
	使用薬剤 1. _____ 治療日、期間 _____
	2. _____
	3. _____
	4. _____
	5. _____
6. _____	
免疫療法	1. あり 2. なし
	合併療法 a. 外科療法 b. 化学療法 c. 放射線療法
	治療開始日 199__年__月__日
	使用薬剤 1. _____ 投与方法 _____ 治療日、期間 _____
	2. _____
	3. _____

放射線療法	1. あり 2. なし
治療内容	1. 放射線療法単独
	2. 合併療法あり a. 外科療法 b. 化学療法 c. 免疫療法
	放射線療法治療開始日 199__年__月__日
	1. 原発巣 総線量 _____ rad
	手術前照射 a. あり b. なし
	手術中照射 a. あり b. なし
	手術後照射 a. あり b. なし
	2. 転移巣 総線量 _____ rad
	手術前照射 a. あり b. なし
	手術中照射 a. あり b. なし
	手術後照射 a. あり b. なし
	治療効果 1. CR 2. PR 3. MR 4. NC 5. PD
	6. 計測不能 7. 脱落
放射線 + 化学療法	合併療法としての化学療法治療開始日 199__年__月__日
	使用薬剤 1. _____ 治療日、期間 _____
	2. _____
	3. _____
	4. _____
	5. _____
	6. _____
	治療効果 1. CR 2. PR 3. MR 4. NC 5. PD
	6. 計測不能 7. 脱落
予 後	1. 生存
	2. 死亡 a. 手術死
	b. 癌死
	c. 他癌死 (_____)
	d. 他病死 (_____)
	e. 事故死
	f. 不詳
	3. 不明
剖 検	1. あり 2. なし